

再評価実施事業調書

番号	2	事業名	社会資本整備総合 交付金(河川事業)		路線又は箇所名等		一級河川利根川水系 印旛沼・印旛放水路		
事業所管課		河川整備課		事業主体			千葉県		
事業化 年度	昭和 51年度	用地着手 年度	昭和 51年度	工事着手年度	昭和51年度	再評価の 理由	再々評価		
B/C	(3.4)	総費用 (現在価値)	488.6億円 (190.0億円)	総便益 (現在価値)	2170.6億円 (644.2億円)				
費用便益比 B/C	4.4 (3.4)	総費用 (現在価値)	488.6億円 (190.0億円)	総便益 (現在価値)	2170.6億円 (644.2億円)	基準年	平成 28年度	供用開始 年度	平成 49年度

※上段：全体事業費 下段()：残事業費

【事業概要】

(目的)

印旛沼・印旛放水路では、昭和51年から河川改修事業に着手しているが、平成3年、平成8年、および平成13年の台風や豪雨により記録的な浸水被害を受けたことから、河道掘削、堤防の嵩上げ等を実施してきた。しかし、平成25年の台風により、佐倉市をはじめとする印旛沼流域で約300戸の浸水被害が発生しており、今後も、市街化の進展により流域からの流出量の増加が見込まれることから、早急に治水安全度の向上を図る必要がある。

(主な実施内容)

- ・築堤 L = 47, 547m
- ・掘削 L = 13, 655m
- ・用地 A = 85, 300m²
- ・鉄道橋 1橋
- ・道路橋 15橋
- ・堰 1箇所

【事業の進捗状況】(H28年度末見込み)

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	367.20	111.73	255.47	30.4

【社会経済情勢等】

① 流域状況

本流域は、首都圏への通勤圏に位置することから市街化が進展しており、流域からの流出量の増加が見込まれることから、治水安全度の向上が急務である。氾濫区域には、多くの優良農地や、上水道、工業用水の浄水場の他、京成電鉄などの交通網を含み、水害発生時の被害、社会的影響が極めて大きい地域である。

② 主な水害状況

- ・台風15号(平成3年9月) 浸水面積 648ha 浸水家屋 625戸
- ・秋雨前線(平成3年10月) 浸水面積1,441ha 浸水家屋 152戸
- ・台風17号(平成8年9月) 浸水面積1,729ha 浸水家屋 182戸
- ・集中豪雨(平成13年10月) 浸水面積 130ha 浸水家屋 97戸
- ・台風26号(平成25年10月) 浸水面積 71ha 浸水家屋 297戸

③ 投資効果

[裸書:全体事業、():残事業]

- ・浸水世帯 2,943世帯(872世帯) ・浸水面積 3,060ha(2,672ha)

④ その他

- ・一級河川利根川水系 手賀沼・印旛沼・根木名川圏域河川整備計画の策定 H19.7.10
- ・関連事業 鹿島川広域河川改修事業(H3~)
- 鹿島川住宅市街地基礎盤整備事業(H6~)
- 高崎川広域河川改修事業(H16~)
- 高崎川住宅市街地基礎盤整備事業(H9~H20)

【対応方針(案)】

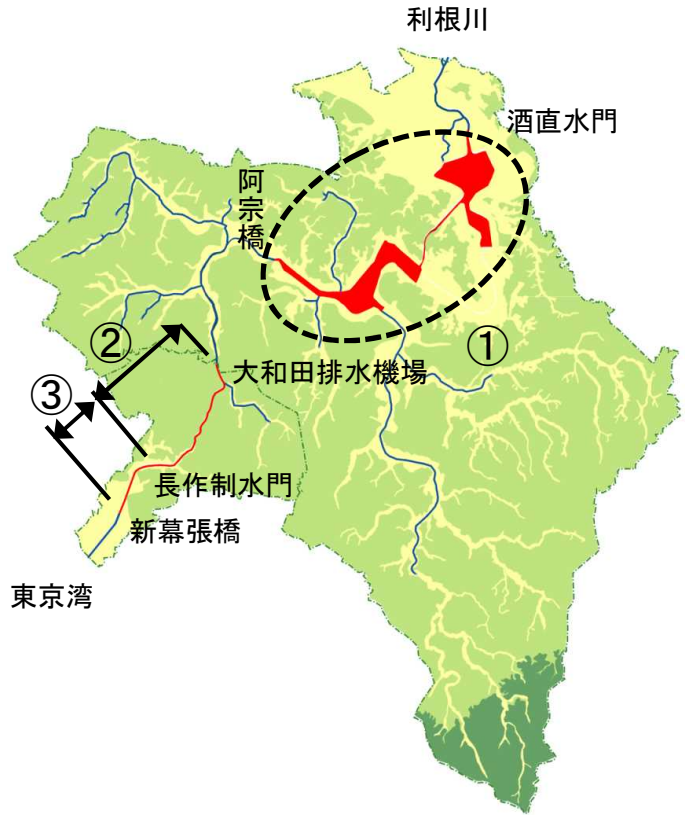
印旛沼・印旛放水路流域では、市街化の進展により流出増が見込まれ、さらに本治水事業への地元からの要望が大きく、また、全体事業の費用便益(B/C)は4.4(残事業3.4)となり、事業の投資効果も見込まれることから、事業を「継続」し、計画的な事業の推進を図る。

事業概要図

番号	2	事業名	社会資本整備総合 交付金(河川事業)	路線又は 箇所名等	一級河川利根川水系 印旛沼・印旛放水路
----	---	-----	-----------------------	--------------	------------------------

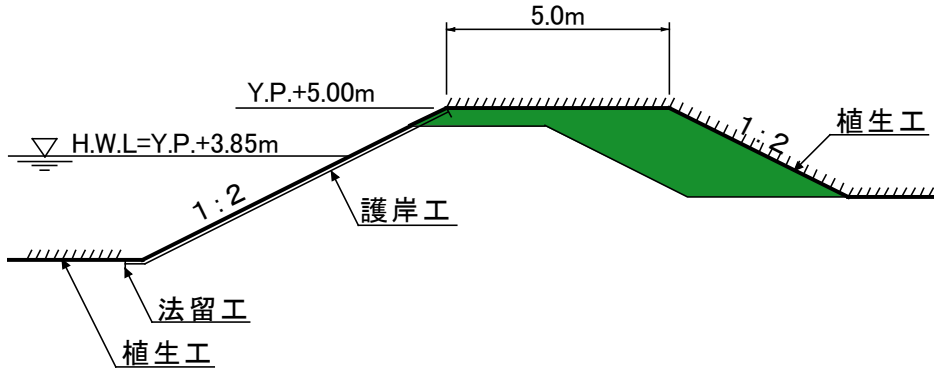
計画平面図

- ① 広域河川改修事業（印旛沼）
 - ・ 事業期間 H16～H49
 - ・ 西印旛沼 L=11,107m
 - ・ 北印旛沼 L=14,567m
 - ・ 印旛水路 L= 4,305m
- ② 広域河川改修事業（印旛放水路）
 - ・ 事業期間 H5～H49
 - ・ L=7,900m
- ③ 高潮事業（印旛放水路）
 - ・ 事業期間 S51～
 - ・ L=2,500m

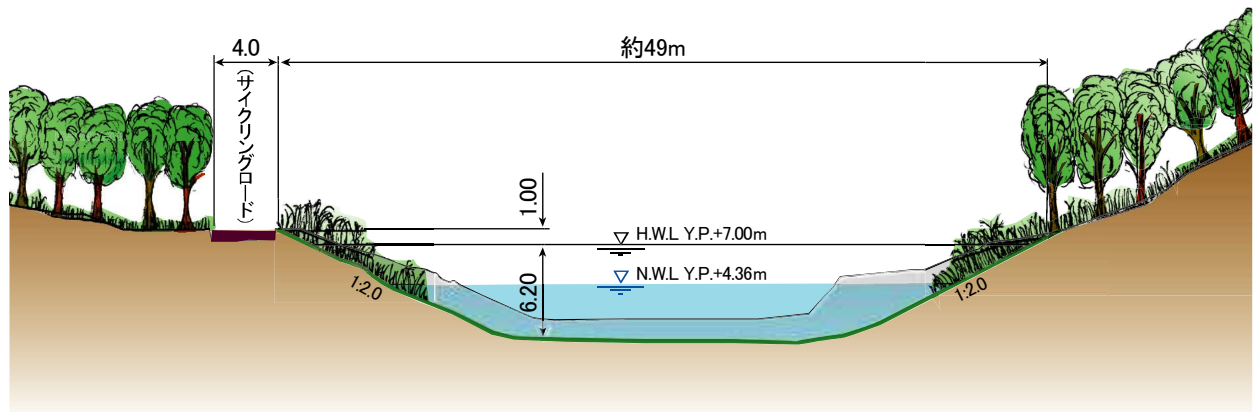


標準横断図

●印旛沼堤防 (L=29,979m)



●印旛放水路 新幕張橋～大和田排水機場 (L=10,400m)



再々評価事業に関する調書

番号	2	事業名	社会資本整備総合 交付金(河川事業)	路線又は 箇所名等	一級河川利根川水系 印旛沼・印旛放水路	
事業化年度	昭和 51 年	用地着手年度	昭和 51 年	工事着手年度	昭和 51 年	

【再評価 (H23 年度) の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 23 年度	供用開始年度	平成 49 年度	対応方針	継続
B/C	5.6	総費用	167.8 億円	総便益	939.1 億円

(裸書 : 残事業)

再評価時の委員会の意見及び当時の状況
○継続することが妥当である。

再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況

	計 画	進捗状況 (H22)	5 年後進捗 (H27)
事業費	367.20 億円	99.22 億円 (27.0%)	142.20 億円 (38.7%)
うち用地・補償費	90.75 億円	45.65 億円 (50.3%)	52.59 億円 (58.0%)
うち工事費	242.25 億円	53.57 億円 (22.1%)	89.61 億円 (37.0%)

【再々評価 (H28 年度) の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 28 年度	供用開始年度	平成 49 年度	対応方針	継続
B/C	3.4 [4.4]	総費用	190.0 億円 [488.6 億円]	総便益	644.2 億円 [2170.6 億円]

(裸書 : 残事業、[] : 全体事業)

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況 (H28 末見込み)
事業費	367.20 億円	111.73 億円 (30.4%)
うち用地・補償費	90.75 億円	46.08 億円 (50.8%)
うち工事費等	242.25 億円	65.65 億円 (27.1%)

再評価後の
経過
及び
処理状況

平成 24 年 3 月 第 7 回手賀沼・印旛沼・根木名川圏域流域懇談会
事業再評価「継続」